

Contents

「私が見た図書館」 向野 衣恵 …… ①
表紙に掲げられた資料の解説 …… ②
学生時代と図書館48
『學而不思則罔。思而不學則殆。』
齋明寺 央 …… ③
「世界をみつめて アイルランド探訪2
ーレンスターー」 澤田 俊明 …… ④
オフィス・インフォメーション …… ⑤
司書雑感
「『ハーンとモラエス』展示会四方山話」
奥 正敬 …… ⑥
インターミッション(13)「ソフトウェア入門」
宮杉 浩 …… ⑦
寄贈図書案内 …… ⑧
「図書館のこんなこと知らなかった④」
野村 季美子 …… ⑨
おこしやす、図書館へ
「図書館って、何をする所?」
藤井 達也 …… ⑨
マガジンラック(23)
知っていますか?図書館の雑誌
栄 咲子 …… ⑩

図書館の素朴な疑問コーナー …… ⑪
スペイン語圏を知る本(その31)
『カナリア諸島 たびたびの旅』
評者 坂東 省次 …… ⑫
中国のほんの話(25)
「1930年代上海文化の復活」
蔭山 達弥 …… ⑬
「新入館員奮闘記」 稲垣 宏行 …… ⑭
「ドイツ文学わき道散歩(9)」
小林 ゆかり …… ⑮
ご存知ですか?
「Japan Knowledge(ジャパンナレッジ)
前編」 …… ⑮
書店関係者にお願するページ
「書籍輸入の過去・現在そして未来」
水野 絵里奈 …… ⑯
新着図書紹介
「現代社会を見つめて」 石美 真也 …… ⑰
Book Review Corner …… ⑱
ライブラリー・カレンダー2004(7月~9月) …… ⑳
7~9月のピックアップコーナー
「オリンピック」 栄 咲子 …… ㉑

表紙に掲げられた資料の解説

PINTO, Ferdinand M.
Voyages and Adventures
London, 1663

ピント『旅行記』



メンデス・ピント(1509?-1583)は、ポルトガルのモンテ・モル生まれの旅行家である。1537年頃、東インドに渡航し、マラッカで貿易商人となった。アジア諸国を遍歴し、1542年、種子島に漂着し、日本に鉄砲を伝えたヨーロッパ人の一人と自称しているが、実証はされていない。また彼の語るところによれば、1544年頃より4度日本を訪れたことになっている。さらに1551年、豊後府内でフランシスコ・ザビエルが大友義鎮を訪問した際、彼らに面会しており、ザビエルとマラッカまで同船したという。イエズス会に加入し、ヌニシュ・バントウーの第3回日本伝道団と共に、1556年豊後に到着したが、まもなく脱会し日本を離れた。帰国後、貧困に苦しみながら、旅の記憶を辿り《旅行記 Peregrinação》を著したものとされている。

英語版は1653年版、1663年版、1692年版の3つの版が確認されており、本書はジェントという人物により英訳された1663年版である。多くの章に分かれ、中国や豊後地方、琉球などの旅を記述している。

本書の初版が刊行された1614年当時、ヨーロッパ列強は海外に植民地を求めて互いに争っていた。そのため、各国語版が出版され、広く流布している。興味本位に記されている所があり、歴史的事実に合わない点が多いが、当時の中国や日本の豊後地方、琉球などの状況、ポルトガル人の東方植民史や日葡交渉史、イエズス会の布教史などを理解する上で、意義ある書である。

原寸 30.3×19.5cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜粋し、加筆